

クラス道徳「さよならの学校」

あらすじ

恭（やすし）はおじいちゃんが大好きだった。そのおじいちゃんが大切に育ててきた泰山木が家の玄関にある。おじいちゃんは恭の誕生日に、泰山木の木の根元にプレゼントを毎年置いてくれた。恭が9歳の時、おじいちゃんが倒れて、入院してしまった。その日に恭が会いに行った時に、亡くなった。次の年の恭のプレゼントは、おじいちゃん大切に育てていた泰山木がプレゼントになった。

おじいちゃんが亡くなってから1年が経って、おじいちゃんの代わりのように恭には弟ができた。恭は弟に、おじいちゃんがしてくれたプレゼントのように、弟のプレゼントをあな泰山木に置いておこう。おじいちゃんの話をしてあげようと考えていた。



誕生日おめでと。

来年はプレゼントを
買いにいけんようじゃ…
それで今から言うておくが、
来年はあの木をプレゼントしたい。



おじいちゃんはどうして「来年はあの木をプレゼントしたい。」と言ったのだろう？



- ・自分の分まで泰山木を愛してほしい。
- ・受け継いでほしい。 ・恭に泰山木を育ててほしい。
- ・おじいちゃんが大切に育ててきたから
- ・おじいちゃんの代わりに、あの木を使って誰かにプレゼントをしたりしてほしいというメッセージ
- ・おじいちゃんはいつもそばにいるよと伝えたい。

恭とおじいちゃんは、お互いに
どんな家族だったのだろう？

みんなの感想

- ・親から子、子から親への気持ちと言うのは物や形は違ったとしても、思いはみんな同じだと思った。みんなが誰かを大切にしている心はきっと変わらないんじゃないかなと思いました。(Tさん)
- ・家族は1番近くにいる存在だから、つい「感謝を忘れてしまう」けど、本当は1番感謝しないとダメでもできてないから「しなあかんなあ」と思う。おじいちゃんの優しい気持ちは、恭にも受け継がれていて、また、その弟にも受け継がれていると思う(Jさん)

みんなにとって、家族とはどんな存在だろう？ そして、みんなは家族の一員として どんなことをしていきたいだろう？

- ・自分の大切な人に誕生日を祝ってもらえるのは、すごくうれしいと思う。でも、その大切な人が突然亡くなってしまうことになって、この話のように大切な人が大事にしていたものを受け継がれることになったら、自分もそうしなアカンなーって思うと思う。(Mくん)
- ・おじいちゃんと泰山木は兄弟のように一緒に育ってきたから、きっとおじいちゃんは泰山木のことをもう一人の自分というような感じだったから泰山木をプレゼントにして、「俺はちゃんと見守っているからな」という感じにしたかったのかなと思った。(Tくん)
- ・恭は弟に大きな木とおじいちゃんのことを話したかった。弟におじいちゃんのマネをすることでおじいちゃんが見守っている感じがするから、恭のおじいちゃんが大好きなこととおじいちゃんは恭をとっても大切に思っているんだなと思った。(Hさん)
- ・おじいちゃんが恭に木をプレゼントしたのは、何年もかけて、自分が育ててきたし、おじいちゃんの代わりに恭にプレゼントを渡してくれていた木だからだと思う。(Hさん)
- ・やっぱり家族は大切で必要な存在。やっぱり家族がいないと寂しいし、悲しい。やっぱりいないとアカン存在。今まで、僕が陸上を続けられているのは親がいてくれて、苦勞があって続けられていると思うから感謝。(Nくん)
- ・今日の授業で、これまではいつでも助けてくれるおじいちゃんだったけど、亡くなってしまっただけで恭は悲しかったと思うけど、最後の言葉で恭は受け止められたと思う。(Yくん)
- ・おじいちゃんにとっての泰山木は、兄弟のような存在で、恭にとっては、もう一人のおじいちゃんなんだと思います。(Mさん)
- ・今回の授業では、亡くなる直前に言った来年はあの木をプレゼントしたいという言葉がおじいちゃんの優しさだと感じた。(Sくん)
- ・恭とおじいちゃんの関係は本当にいいものだった。お互いにとって大切な存在だと感じた。(Yさん)
- ・「もらってうれしかったもの」と言われてピンと来なかったけど、「嫌なもの」は無かったです。でも、恭は一つ一つが嬉しくて、本当におじいちゃんが大好きなんだと思ったし、自分みたいな存在の木をあげるといっても、本当に恭が大好きなんだと思いました。(Kさん)
- ・おじいちゃんと恭は、変わることもない深い関係があるんだと思いました。あの木じゃないとダメなのは、ずっと木の下にプレゼントを置いてきて、最後には、あの木自体をプレゼントしたかったんだと思った。(Sさん)